

【研究テーマ】

□ 静岡地域における若年層の雇用・就労環境が人口動態に与える影響の包括的分析と提言

キーワード：人口減少、地域移動、若年層、雇用・就労環境、地域づくり

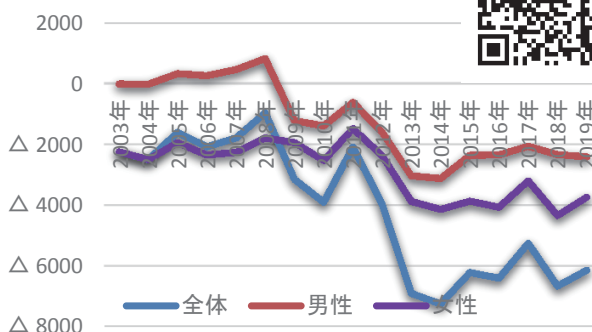
「人口動態と就労環境」研究所

「サステナブルな地域社会」を実現するには、一定の人口を維持すること、それも年齢層的にバランスの取れた人口構成を維持していくことが求められるところです。しかし、近年、静岡県においてはとくに若年層の人口流出が危機感を持って受け止められています。

こうした状況が生じてくる背景は複雑なものであり、そして対策は包括的なものである必要があります。そのため、私どもは学際的な分析と提言がなされるように経済学・法学・社会学の研究者からなるチームを組織し2021年10月よりプロジェクト研究所として活動を開始しました。

人口動態には出生率に関わる自然増減と人々の地域間移動に関わる社会増減との2側面が問題となります。両者は関連しており、若年層の社会減(流出)は当然自然減にも繋がります。そのため、この研究所では「静岡地域における若年層の雇用・就労環境」と「地域間移動(移住・定住)」との関係などを主たるテーマとしています。

静岡県の社会増減



①共同調査

私たちは統計分析と質的分析の専門家からなる集団です。各自治体における人口動態のメカニズム、なぜ若い人々は県外、あるいは県下の他の自治体に移住していくのか、そこに進学や雇用・就労環境はどのように関わっているのか、また県下の若い人々の暮らしぶりはどうなっているのか。そうしたことを、まずは各自治体の関心ともすり合わせながら、協働的に系統的な調査を行い調べていきたいと考えています。②の提言やモデル事業につながるエビデンスづくりがここでは目指されることとなります。

②提言とモデル事業への展開

調査結果をもとに自治体、教育機関、経済団体、NPOなど、この問題に関心のある各種地域団体とアイデアを出し合い、協議を重ね、実際に取り組める対策や制度づくりを提言していくことを目指しています。

大学が足りない(では新設する?)、若者に魅力的な産業が足りない(誘致する?)といった大雑把な議論ではなく、子どもや若者はもちろん、中高年齢層にとっても住心地のよい地域としての魅力を向上させる、細やかに継続できる方策を考え出し、各所でモデル事業も試みたいところです。

プロジェクト研究所 所長



荻野 達史

学術院人文社会科学領域
人間・社会系列
教授

■ 研究所メンバー

人文社会科学部 ・教授 上藤 一郎 ・教授 吉田 崇
 ・教授 本庄 淳志 ・准教授 松原 仁美
 学生支援センター 教授 宇賀田 栄次

■ 相談に応じられる関連分野

- ・社会調査(各種統計調査、質的調査)
- ・就労支援、若者支援
- ・労働法、社会保障法

